

食いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第50回 2022年7月)



書きも書いたり 50 回。塵も積もれば山となる。いや、このコーナーは塵なのか!? 掃除機で吸われる運命なのか!?

6月の第3日曜は『父の日』だったらいい。らしいと言うのは、わが家ではその日に何らかのイベントがあったためしがないからだ。

昼間にいっしょだった人(30代男性)が、「今日は父の日だから、夜は寿司を食べに行くんだ♪」とうれしそうに語っているのを聞いて、初めて今日がそんな日であることに気づいた。

「僕も父親だけど、今日は何もないなあ」と言うと、その人は笑いながら食いしん防の肩をバンバンたたいてきた。

「大丈夫ですって! きっと何か用意してくれてますよ!」

その人は知らないのだ。わが家ではいかに父親が虐げられているかを。



案の定、帰宅してもふだんとまったく変わらないまま夜はふけて、日付けは変わった。

ここで訴えたいのは、『日本の家庭では、母親にくらべて父親の影が薄い』ということでも『食いしん防の家庭では、奥さまにしか人権がない』ということでもない。考えてみると、食いしん防も子どものころ、『父の日』に親孝行した記憶がほとんどない。1度ネクタイをプレゼントしたことがあったなあ、という程度である。自分がたいしたこととしてないのに、子どもたちに何かを求めるのは虫が良すぎる。

思うに、父親がもらってうれしいのはモノではなく、『感謝の気持ち』であるはずだ。ふだんからそれを表していれば、特定の日に大仰なことをする必要はない。

しかし我々は、自分がしてもらっていることを『当たり前』と感じ、感謝することを忘れてしまいがちだ。だからそれを思い出すために、『母の日』や『父の日』があるのだろう。

……てなことを考えながら、今年の『父の日』も何もなく終わったことを正当化しようとする食いしん防なのであった。期待はしていないが、もし子どもたちが何かくれるというなら、いつでも喜んで貰うつもりだ。



←夢

現実→



TOPICS

☆こと防全体会が開かれる

湖東地区防災ネットワーク（こと防）の全体会議が、6月28日に開催された。冒頭には、前号でも紹介した中村準一氏による『“自分の命は自分で守る”から“みんなの命をみんなで守る”へ』と題したミニ講演が行われた。

超簡単に内容をまとめると、「大きな災害が起こると、高齢者など自力で避難するのが難しい人に大きな被害が出る。そこで地域にいる要避難援護者を把握し、いざという時に誰が助けてどの避難所まで連れていくかを定めた個別避難計画を、自治会でも作って、誰も取り残さない防災の取り組みを進めていく必要がある」

30分強という短い時間だったので、中村さんの話は駆け足で要点だけ述べたものにならざるをえなかった。「ええい、まだしゃべり足らん！」と地団太を踏む中村さんをなだめながら（嘘です。中村さんはそんなキャラではありません）、ブロックごとに今年度の活動内容を話し合った。

結果として、すべてのブロックが「個別避難計画の作成に向けた取り組みを進める」ことで一致した。現時点ではそのために何をすればいいかわからないので、具体的な取り組みを知るための勉強会からスタートすることに。おそらくは秋ごろに、全ブロック合同の講習会が開かれる予定。

「これで湖東地区は私の支配下だ。ムハハハハ」と中村さんは高笑いした……りはしません。そういうキャラじゃないから！

4年度のこと防代表などについては次号で報告。



今後の活動予定

- 7月 2日 防災・減災のつどい（五個荘コミセン）
- 8月 5日 災害支援市民ネットワークしが研修「女性の視点に立った防災」
- 10月ごろ // （内容未定）
- 11月26日 防災出前講座 in 小田苅町
- 12月ごろ 災害支援市民ネットワークしが研修 （内容未定）

※ 出前講座の申し込み受け付けます！



←こうではなくて
こんな感じ→



勝手にQ&Aコーナー

Q：中村さんが変なキャラに描かれていますが、実際はどんな方なんですか？

A：食いしん防とは正反対の、温厚なジェントルマンです。間違っても地団太を踏んだり高笑いしたりされません。

Q：50号という節目にしては中身は薄いし、アップする日もいつもより遅かったですね。不調ですか？

A：また喧嘩を売ってるのか、あんたは！ 1日にアップできなかったのは、殺人的に忙しかったからだよ。別に不調なわけでは……はア（ため息）……あれ？

楽しい質問、お待ちしております！

（文責：こじまっちょ）

